

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成28年度第2回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 平成28年5月24日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 水戸市国際交流センター 多目的ホール・研修室3
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 委員長 金本 節子, 副委員長 水嶋 陽子, 大野 覚, 平沼 賢治, 金成 滋, 石川 浩之, 鹿倉 よし江, 青木 千鶴子, 斎藤 寿子
 - (2) 執行機関 【市民生活課】課長 柏 直樹, 副参事兼課長補佐 笠原 昭彦, 協働係長 橋崎 真哉, 主幹 沼田 望
【農政課】課長補佐 後藤 俊之, 企画係長 稲葉 大貴
 - (3) その他 特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき
一般社団法人 茨城県健康生きがいつくり協議会
- 5 議題及び公開・非公開の別 協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る平成28年度提案事業(2次募集)の公開プレゼンテーション(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
 - ① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため。
 - ② 公にすることにより, 率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人
- 8 会議資料の名称 平成28年度提案事業(2次募集)の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

事務局	(開会の挨拶, 進行についての説明)
委員長	ただ今から, 平成28年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」(2次募集)の公開プレゼンテーションを始める。提案のあった8事業について, 提案団体と市担当課から, 事業の概要, 協働による効果, 役割などについて発表していただく。
提案団体 農政課	【発表: 「みどりと野鳥の森」整備事業】
委員	重要な活動だと思うが, 今後, この活動を次世代に引き継いでいくための計画などはあるか。
提案団体	少しずつではあるが, 子どもの参加が増えている。整備作業に2年ぐらい通い続けている子どもたちがおり, その子どもたちが中心になって, 別の子どもたちを活動に連れてきてくれている。そういった子どもたちが大人になったときに, この活動を引き継いでいってくれると思うので, 子供会等を通じて子どもたちへの声掛けを行いたいと考えている。
委員	3年間で何㎡程度の面積を整備する予定か。収支計画書中の謝礼金について, 金額と積算内訳が相違しているのではないか。また, 地域住民等への呼びかけはどのような方法を検討しているのか。
提案団体	63,777㎡の敷地の整備を予定している。謝礼金については, 重機等を操作できる資格を持っている人への謝礼を予定している。有資格者に対する謝礼としては, 50,000円では十分でない。時間単価で, 金額を算出しなければならなかったが, 時期によって単価が異なってくるため, そのような表記になってしまった。 現地は, 稲荷第二小学校の目の前にあり, 稲荷第二小学校に通う子どもたちがよく遊びに来ている。子どもたちや, 現地を訪れた人々に対して, 整備作業への参加を呼びかけている。
委員	プレゼンテーションの中で, 木戸房池ビオトープ整備事業に触れていたが, 先週の報告会と内容がほとんど同じであった。今回, 「みどりと野鳥の森」というテーマを掲げて, 同じ活動をするということか。プレゼンテーションだけでは, 木戸房池ビオトープ整備事業との違いが見えてこない。
提案団体	これまで整備を進めてきた場所は, かなりの湿地帯であり, ビオトープとして整備を進めてきた。提案制度を活用しての整備作業としては, 平成27年度で終了となるが, 団体としては, 草刈作業等を継続していく予定である。この3年間で, 地域住民等との連携体制がまとまってきたものが, 草刈作業等だけでは弱くなってしまわないかと心配している。

提案団体 農政課	〔発表：水戸オーガニ蕎麦プロジェクト〕
委員	地域コミュニティの再生，遊休農地の活用等の目的を実現するためのツールとして，蕎麦栽培を行いたいとのことだが，交流人口の拡大に向け，都会からの参加募集については，どのような形で募集をするつもりか。
提案団体	昨年は，銀座にある茨城マルシェにチラシを設置，また，ホームページでの広報を行ったが，東京からの応募はなく，地元から2組の方が事業に参加したというのが，実状である。今年，東京23区のどこか，現時点では，杉並区を想定しているが，区役所に相談して，参加を呼びかけようと計画している。
委員	平成26年度の決算を確認すると，他の団体から，100万の助成金を受けているようだが，今年度の他団体からの助成の予定はあるか。
提案団体	昨年度は，福島県からの避難者を支援する事業として，助成を受けていたが，今年度は，他団体からの助成はない。
委員	農政課としては，この事業に取り組む際の課題は何であるかと感じているか。また，その課題に対しては，協働によりどのように乗り越えていくつもりか。
農政課	実際に事業を実施してみないと分からない部分もあるが，どれだけの参加者を集めることができるかということが，課題だと思う。提案団体も，募集に係る広報が不安であるということなので，市のホームページ等を通じて，広報を行っていきたいと思っている。市としても，農作物の収穫体験等のイベントを増やしていく方向であるので，本事業は，お互いに補完し合うことができるいい事業だと考えている。
委員	遊休農地の活用や，地域のふれあいにつなげることを目的とした，素晴らしい事業だと思う。やはり，参加者の募集が大きな課題になると思う。市のホームページに掲載したからといって，見てくれるひとはなかなかいないと思う。 さらに大きな課題が，地域住民の巻き込みだと思う。地域住民が参加できるものとしては，会費制の農作業体験と，無料で個別の農作業を体験する2つのメニューがあったと思うが，地域住民をどのように巻き込んでいくのか。
提案団体	酒門町にある農園で蕎麦栽培を行う予定なので，農園近辺の町内会を通じて，地域住民への参加を呼び掛けたいと考えている。
委員	杉並区へのPRを想定しているとのことだが，他の特別区にも広くPRしてみてもどうか。
委員	参加者のメリットとして，栽培した蕎麦の蕎麦粉等が貰えるという点を挙げているが，参加者の男女比はどの程度を想定して，事業を企画しているか。お土産を配るというだけでなく，プレゼンテーションにあったように，蕎麦の花を楽しむといった視点を入れてみてはどうか。

<p>提案団体</p>	<p>会員は現在、26名在籍している。女性が約3割で、基本的には男性が多い。福島県からの避難者の方々は、夫婦で参加されており、参加者の5割が女性である。これから、事業を実施していく中では、家族単位で参加してもらいたいと考えているので、男女比は同程度になるのではないかと想定している。</p>
<p>委員</p>	<p>栽培した蕎麦を食べるというだけでなく、蕎麦の花を見て楽しむといったことも事業のアイデアに入れたら、更に楽しい事業になるのではないかと。</p> <p>(閉会の挨拶、報告会の公開について説明)</p>